

大杉漣氏主演作品も登場

20、21日、にいがたインディーズ・フェス

にいがた・インディーズムービー フェスティバル

上映スケジュール

11月20日(土)

第4期にいがた映画塾卒業製作作品

19:00~20:00

- 1. 「少女の館」小林康紀 11分・16mm
 - 2. 「崇とその仲間達」木原大吾 31分・VHS
 - 3. 「舞い」青柳透 15分・VHS
- 監督舞台あいさつ

20:25~21:30

- 4. 「Birthday」佐藤志歩 8分・8mm
 - 5. 「ひとやすみ」関谷洋美 28分・8mm
 - 6. 「月の下は」神尾一実 15分・8mm
- 監督舞台あいさつ

21:45~22:45

- 7. 「パンダ」富永雅彦 10分・8mm
 - 8. 「王様と裸」中野敏寛 40分・8mm
- 監督舞台あいさつ

11月21日(日)

1回戦 13:30~15:15

- 1. 「カモメ」高橋のぶ 28分 8mm
 - 2. 「斉藤琢己プロモーションビデオ」野上純嗣 25分VHS
 - 3. 「街」吉田健明 6分VHS
 - 4. 「ある男に捧げる挽歌」山岡大祐 28分VHS
 - 5. 「ヘル ゴーゴ」大橋健一 7分VHS
- 監督舞台あいさつ

2回戦 15:30~17:15

- 6. 「虹のたね」山田佳代 12分8mm
 - 7. 「夏の伝言」春藤陽太郎 26分8mm
 - 8. 「芥子色の空」稲垣国彦 36分S-VHS
 - 9. 「FIGHT SCENE ~ DIRECTOR CUT ~ 短縮版」仲沢秀明 5分
 - 10. 「家に帰ろう」結城綾子 16分VHS
- 監督舞台あいさつ

3回戦 17:30~19:00

- 11. 「紫の薔薇殺人事件」高橋亨 30分8mm
 - 12. 「丸の内1701」佐伯知子 20分S-VHS
 - 13. 「若者たち」金子正史 3分VHS
 - 14. 「新・必殺学生仕事人」鈴木真之 30分VHS
- 監督舞台あいさつ

4回戦 19:15~21:00

- 15. 「石の花」蓮井勝彦 44分8mm
 - 16. 「プランコ」藤本陽平 3分8mm
 - 17. 「BAD BOYS Good DAYS」石川浩之 35分8mm
 - 18. 「蚊と闘う男」佐藤広一 14分VHS
- 監督舞台あいさつ

5回戦 21:15~23:05

- 19. 「黒いカナリア」田巻源太 10分16mm
 - 20. 「うれしい着ぐるみ」井上朗子 20分16mm
 - 21. 「ぬりえ」柄沢優子 30分VHS
 - 22. 「ワンセルフ」長谷川隆 8分VHS
 - 23. 「A Light」帯瀬利明 30分VHS
- 監督舞台あいさつ

6回戦 23:20~25:10

- 24. 「t こまがたちなつ」15分8mm
 - 25. 「PEEP SHOW」神文哲 5分VHS
 - 26. 「1 NIGHT」真保蔵 20分VHS
 - 27. 「ロメオの夜~虚構の境界~」森田義文 27分VHS
 - 28. 「北の国より」更科ヒトシ 30分VHS
- 監督舞台あいさつ

初めて二日間の開催となった第三回は、初日(二十日)午後七時から第四期講座の卒業作を上映。二十一日は十八本のうち映画塾関係品を上映。午後一時半から休憩を挟み深夜まで一般応募作品を「六回戦」に分けて二日間の上映を行う。一般応募の十八本のうち映画塾関係品は十八本。残り八本は、新田巻さんは現在、新潟市内にある新潟県立新潟南高校の三年生。九九年の五月、シネ・ウインドで開かれた大杉氏特集のオ

映画塾 今年もマラソン上映会

高校生・田巻さん監督

「あなたの映画みせてやれっ！」がキャッチコピーの、インディーズ映画の祭典、にいがたインディーズムービー・フェスティバルの第三回が十一月二十(土)、二十一(日)の両日、新潟市万代の新潟・市民映画館「シネ・ウインド」で開かれる。一九〇〇年代の最後を飾る今回は、にいがた映画塾「第4期映像実践講座」のほか、一般応募作品として二十八本の作品を上映する。一般応募の目玉は売れっ子俳優の大杉漣氏が出演している「六ミリ映画、黒いカナリア」。高校生監督・田巻源太さんの力作だ。二十一日の上映終了時間は二十五時(二十二日午前一時)の予定で、前日に引き続き、またもや体力勝負の上映会となった。

「ひらめきだった」。十七歳の熱意に対し、大杉氏は「送られたシナリオを読んで、荒いながらも思った。でも自分がやったらどうだろうという興味があった。僕はいつも監督とレッツ・ゴー、一緒にやるというスタンス。田巻君ともスタンスは同じだった」と言う。撮影は十一月一、二日の両日、新潟市内で行われた。物語は、ある男が朝起きたらカラスになっていた」という。カフスタッフは、映画塾のスタッフも手伝ったが、撮

入場料は当日千二百円、前売り千円(ともに二日間共通、再入場可)。問い合わせは「にいがた映画塾」、電話025-248-9088へ。

影など主要なパートは田巻さんの友人の高校生が担当した。「できあがった作品が成功しようが、失敗しようが関係ない。プロの監督と同じく、一人(大杉氏)と一緒に映画撮ってみたいと思ったから手を挙げていた」と言う。残念ながら、仕上げ作業の都合と、制作費が底をついてしまったため、二十一日の上映では荒つなぎの未完成フィルムしか上映することができない。しかし田巻監督と大杉氏の心意気を見に来てほしい。そして、田巻監督は映画を完成させるためのカンパ(約四十万円かかる)を募っている。「黒いカナリア」(未完成版)は二十一日午後九時十五分ごろ上映される。

告知ばん

カンパをお願い高校生監督が売れっ子俳優、大杉漣さん主演で撮った「六ミリ映画、黒いカナリア」が、早くも予算難で完成の危機に瀕している。監督の田巻源太さんは、カンパを募集している。



にいがた
映画塾通信

第七号(九九冬)
編集・発行
にいがた映画塾
新潟市花園2-3-2 飛鳥ビル
〒950-0086
電話・ファクス
025-248-9088

「熱い夏」を全力疾走

次々飛び出す名言・迷言

「第4期映像実践講座」は五月九日から八月二十九日まで全十七回のカリキュラムを行い、無事終了しました。二十九人が「完走」し、八本の卒業作品が誕生。並行して開かれたシナリオ・ワークショップの単独受講者十三人も含め、計四十二人が熱い一夏を過ごしました。今回は映像制作の楽しさを教えるだけでなく、「個性的な作品を生む」ことも目標の一つ。十

一人の講師の厳しく、温かい講義。受講生の意気込み。そして卒業作品をめぐる焦り、いらだち、衝突、完成した喜び、友情……。四カ月間を振り返るとともに、毎回飛び出た「名言・迷言」を紹介いたします。また、同時開催したシナリオ・ワークショップの講師から、ワークショップの雰囲気について寄せてもらいました。

第一期(五月九日)ら始まり、「ビデオを制作」も受講生はいきなり体験。

小林茂氏(「阿賀に生きる」カメラマン)「フィルムはずっと動いているわけではない。一秒間に二十四枚の写真、十秒で二百四十枚の写真が並んでいっていると思ってください。つまり映画とは静止画の集まり。人間の錯覚で動いているように見えるだけ。つまり「幻想」である」

シナリオライターの小林井晴彦氏による「シナリオ入門」。受講生提出の短編のシナリオを基に講評した。

荒井氏「映画は役者とカメラがあればバカでも撮れるが、シナリオはバカでは書けない」「基本画として映画に映らないこと、見えないことは書かない。でもシナリオとは見えないものを書くこと。それは人間の心」

劇団「カタコンベ」の戸中井三太氏による「演技実習」、主任講師の笹崎隆氏ら映画塾スタッフのハミリカメラの技術を説明した。次回の「ハミリ映画制作実習」のために班ごとの自主ミーティングも。

戸中井氏「演技とは役を生きていくこと。それにはガッツも必要だが、ガッツだけでは役が行き詰まる。だから演技論がある」

新潟大学助教授の北野圭介氏による「映画理論」、主任講師ナシモト・タオ氏による「制作入門」を行った。

北野氏「日本映画を語るべき、よかれ悪しかれハリウッド映画」との比較論が中心になる。ハリウッド映画の特徴は「分かりやすさ」。その分かりやすさを確保するために努力してきたのが

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第九回(七月四日)美術評論家の大倉宏氏を招いた講義「表現するとは」を行った後、受講生による「卒業制作企画プレゼンテーション」を延々と続けた。

大倉氏「何かを表現するとき」頭の中でしっかり練り上げたものを外に出すだけでは非常に狭い作品しか生み出せない。自分の中で考えていた「意味」を超えた、いわば無意味なものが偶然生まれたときに、それを冷静に対峙し受け入れていく作業が大事であり、他人へ訴えるものが生まれる」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」



受講生とスタッフ全員で記念写真

青山氏「映画が映画であるためには、それ以外のものであってはいけない。映像を使わなければ語れない物語を撮ることが映画なのです」

第三回(五月二十三日)

ナシモトタオ氏(映像作家)「物をつくるという行為は、自分の何かを賭けること。そして、誰かに嫌われること」

第五回(六月六日)

戸中井氏「演技とは役を生きていくこと。それにはガッツも必要だが、ガッツだけでは役が行き詰まる。だから演技論がある」

第七回(六月二十日)

新潟大学助教授の北野圭介氏による「映画理論」、主任講師ナシモト・タオ氏による「制作入門」を行った。

第九回(七月四日)

美術評論家の大倉宏氏を招いた講義「表現するとは」を行った後、受講生による「卒業制作企画プレゼンテーション」を延々と続けた。

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第4期映画塾の4カ月間

かわなかつ氏「ごさかしい映画を撮るよりも、形にこだわらず自分をスト

リットに出した方が人の心が届くものができる」

「現場はつらい。イメージどおりにはいかない。やりたいことを妥協しなきゃいけない(ある受講生)」「それが現場だ」(あるスタッフ)

新潟大学助教授の北野圭介氏による「映画理論」、主任講師ナシモト・タオ氏による「制作入門」を行った。

美術評論家の大倉宏氏を招いた講義「表現するとは」を行った後、受講生による「卒業制作企画プレゼンテーション」を延々と続けた。

旧家を借りて撮影をした小林組



ハリウッドの八十年の歴史だ」

第九回(七月四日)

美術評論家の大倉宏氏を招いた講義「表現するとは」を行った後、受講生による「卒業制作企画プレゼンテーション」を延々と続けた。

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

卒業作品制作へ本格的に突入した。スタッフによる個別相談で実現の可能性を探ったが、希望、絶望、迷い、意地、取り引き、合従連衡などさまざまな思い、駆け引きが交錯した八時間だった。まず六本の企画が決定。小林茂氏「一つのシーンで言えることは一つ、一つの映画で語れることは一つ」

第十回(七月十一日)

第4期卒業作品の紹介

月の下は(8ミリ、15分)
とりあえず、と走り出す1人の若者。後を追って探す2人の友人。いつしか月明かりが彼らを照らし出す。そして朝。夜の街と若者たちの心象風景を描く。
【出演】高橋亮輔、松本真樹子、奥山智広【監督・脚本】神尾一実【撮影】坂上和孝【撮影助手】鈴木貴之【助監督】藤原由美【録音】富永雅彦【プロデューサー】山田佳代、青木久仁子、豊島裕之【制作進行】金子正史

少女の館(16ミリ、11分)
古い屋敷に住む美しい姉妹2人の倒錯した姉妹愛は行き場を失っていく。妹は入りこんだ放浪者に姉を託し、亡くなった母の元へ帰ろうと眠りにつく。
【出演】田中未来、伊藤貴子、戸中井三太(劇団カクコンベ)【監督・脚本】小林康紀【撮影】樋口美雪、生野英樹【助監督】石川武志【制作】山川智子【プロデューサー】笹崎隆【制作補】坂井勇介

Birthday(8ミリ、10分)
よく似た二人の女が海辺にいる。二人は死体を見つける。死体の顔には包帯。穴を掘り始めると、砂の中からピストルが出てきた。顔の包帯をとると...。美しく怖い物語。
【出演】古侯彩、古侯笑【監督・脚本】佐藤志歩【撮影・プロデューサー】清水茂【制作】太田正毅【録音】富永雅彦【記録】井上朗子【スチール】高橋美香【協力】安藤麻里子、立海睦、千葉壮

舞い(ビデオ、7分)
突然、部長からクビを宣告された若いサラリーマン。ショックで舞い始めてしまった。舞いながら旅に出ると、女の子や怪しい男たちに出会い、とうとう部長も現われた。妄想の世界を映すバイオレンスコメディ。
【出演】高橋徳治、野上純嗣、斉藤かよ、馬場健、高橋秀樹【監督・脚本・撮影・編集】青柳透【制作】佐藤めぐみ、高橋秀樹【音楽】テラサワマサル

パンダ(8ミリ、10分)
草むらにマネキン。マネキンを黒く塗りはじめ少女。自分の体も塗ってみた。でめきんが泳ぐ水槽の向こうに眠る女。気づくとひとりぼっち、上には空が、ここはどこ、私はソラです。自我をめぐるイメージが続く。
【出演】樋口美雪【監督・脚本・撮影・編集・録音】富永雅彦【制作・助監督】神文哲【プロデューサー】石川浩之【協力】高橋美香、須貝奈穂子

崇とその仲間たち(ビデオ、30分)
ろう重複障害者が働く『あさひ共同作業所』のある夏の1日をとらえたドキュメンタリー。監督も障害を持ち、ろうあ者の指導員との手話によるインタビューが興味深い。
【出演】渡辺崇、通所生とその父母、指導員、ボランティア、木原大吾(インタビュアー)【監督・撮影・編集】木原大吾【撮影・編集】田村康子【撮影】伊藤康二【プロデューサー】吉田健明

王様と裸(8ミリ、45分)
死体を探しに行く若い男と女。探しているうちに別れ別れ。スイカを持った中年男がそれぞれの前に現れる。海で二人は再会し、思いをぶつけ合うのだった。
【出演】丸山千穂、永田曉児、五十嵐政人【監督・脚本】中野敏寛【撮影】加藤陽子【DV撮影】道家洋二【制作】駒形千夏、渡辺典子【プロデューサー】矢部孝男【プロデューサー・DV撮影】堀浩【スチール】高橋美香

ひとやすみ(8ミリ、28分)
ある田舎町。FMを聴きながらドライブをしている女の子。女の子は自転車に乗っている男の子を見つける。行く先々で男の子とすれ違ううちに互いに意識していくが...
【出演】佐藤ひとみ、長谷川隆【監督・脚本】関谷洋美【撮影】山田耕平【助監督】清野弘子【制作】武藤未来【プロデューサー】星龍雄、宮川直子、柄沢優子【音楽・ラジオ】更科均、加藤真奈美

迷い、喜び

五十嵐政人氏(塾長)「君の企画に人が付かないのは君自身に問題があるからだ」。「まだ変えてもよい、まだ撮れる、まだあきらめるな」
第十二回(七月二十五日)
講義の最終日。映画を撮るために必要な準備項目の確認を、スタッフと受講生で行ったが、依然シナリオが決定しない組もあった。
五十嵐氏「ベトナム戦争で持ちこまれたカメラと、映画塾にある一六ミリカメラ(スクーピック)は同一の機種。つまり映画塾で撮った映像は、歴史的背景という意味でベトナム戦争で撮った映像と同じカメラが絵を切り取っている。ゆえに映画塾とベトナムは同じである」
第十三回 第十六回

シナリオ・ワークショップについて

講師 郡司 健

講師はナシモトオ、郡司健、ほかに特別講師として荒井晴彦氏に二度参加していた。このワークショップでは、一、シナリオ表現の基本的技術を身に付ける。二、映像による自由な想像の場を提示する。以上二点を目的とした。
一については課題を設けた。「別れ」「四コマ漫画」「荒井晴彦自由で作品を発表し、二については各人、自由に作品を発表し、をあらわせ」「出会い」。二百字詰め二十枚以内のシナリオを手書きで提出。人間関係の表し方、起承転結、題材の選び方と調理法。シナリオの構造と伏線について、台詞とト書きの関係などを学んだ。また、映画「月はどっちに出ている」を見て採録シナリオと比較した。
二については各人、自由に作品を発表し、

「七月二十六日 八月二日、県内各地で撮影をした。猛暑の続いた八月。八組は各自でプランを立てた。第十八回(八月二十九日) 行った。第十七回(八月二十一日) ラッシュアップ上映と、閉講式が行われた。中野敏寛氏(受講生)「シナリオを書きながら脳の中から天才さんや荒井晴彦さんの声が聞こえてきて、必要以上に苦しんでしまった」

講師はナシモトオ、郡司健、ほかに特別講師として荒井晴彦氏に二度参加していた。このワークショップでは、一、シナリオ表現の基本的技術を身に付ける。二、映像による自由な想像の場を提示する。以上二点を目的とした。
一については課題を設けた。「別れ」「四コマ漫画」「荒井晴彦自由で作品を発表し、二については各人、自由に作品を発表し、

講評し合うスタイルで行った。批評し合うことによつてよい作品、作家を生み出すことを主眼とした。
わずが、三カ月あまりで基本的な技術を身に付けるのには無理がある。映像・シナリオ作家を目指す者にとつてシナリオがいかに大事かを考え、シナリオに取り組みむきっかけ作りには役立ったと言える。さらに、参加者から新鮮な作品が提出されて、飯島直美さんの「サイクル」という作品がワークショップでもまれ、面白くなつていき、彼女自身がシナリオ表現で成長したのは特筆してもよい。受講料も参加者にとつてはお得といえるものだった。大事なことは、新潟で初めて「シナリオ」を考え実践する場だったということだ。



4期の記録集 完成しました
第4期映像実践講座の記録集「写真」が完成しました。タイトルは「めい」。定価三百円。映画塾会員は無料です。
ご希望の方は映画塾へ。 8月4日 02時5分 担当 五十嵐

佐藤志保氏(同)「アメリカに留学に行く書類を申請しているが、なかなか来ない。映画を撮る危険人物だと思われているのか。それなら本望」
伊藤貴子氏(同)「楽な方に進んでいったのでとても楽しかった。その代わりに辛い思いがなくなつた分、ちよつとつまらない。今度は(人の作品を手伝って)苦しみたい」

まい」。第4期の立ち上がりからの会議の様子、カリキュラム、講義の概要、卒業作品の全シナリオなどを収録。講義の写真もふんだんに掲載しています。A四判三十六ページ。定価三百円。映画塾会員は無料です。
ご希望の方は映画塾へ。 8月4日 02時5分 担当 五十嵐

